

建築の 学びを活かして

みな笑顔!



「田舟」遊び(「田舟」復元)
京都府立大学との連携



「積み木」・「木箱」の寄贈
(製作:宮津中学校)



日本三景 天橋立
年間約277万人の観光客



壁の落書き 消しましょう



建築科授業 木



宮津高建築科の生徒たち



「ままごとハウス」の寄贈
(宮津市立宮津幼稚園 平成 24 年度)

地域連携のきっかけ「落書き消し」
技術指導:(株)イワ本建築塗装 様



東日本大震災復興支援活動
「ままごとハウス」の寄贈(郡山市 富田幼稚園 平成 26 年度)



北山杉を使用した「パーゴラ」(加悦聖三一幼稚園)
北山杉提供:京都北山丸木生産協同組合 様 (平成 24 年度)



地域の大切な守り神「地蔵尊」の修復
技術指導:(株)大村工務店 様
瓦葺指導:三宅瓦店 様



京 彦 楽 屋 (文 刊)
2009年(平成21年)3月9日 月 曜 日

灯

三月になっても風は冷たい。そんな夜に、真新しいバス待合所ができた。建てたのは六人の高校生だ。京丹後市大宮町の「大宮口1ドバー」だ。京丹後バスを利便性の多い停留所にしたが、待合所はなかった。寒そうにバスを待つ姿を見かねた住民の要望も、とくに、府職員が知人の宮津高建築科・小谷保護教諭に製作を依頼された。同高は府内で唯一、建築科を持つ。三年生になる実働の工法を学び、毎年、保育園の遊具を作ってきた。これに加え、今回は待合所、公共の施設だ。機軸作りから設計、加工、組み立てまで熟練の連綿。仮組みの初めは、その位置の誤りに気づき、やり直りも多かった。取り組みは、府教委の勧めで他校にも広がる。待合所の背面には、峰山の生徒がデザインした華やかなステンドグラスを設置。工業高の生徒は太陽光発電による電波時計を備え付けた。

「丹後の空気にマッチした日本一のバス停。完成披露式で、宮津高の森脇康隆君は胸を張った。卒業後、それぞれの道を進む高校生が、故郷に贈った最後のプレゼント。彼らの思いは春風のように丹後を包み込む。(三田 真史)

日本一のバス停